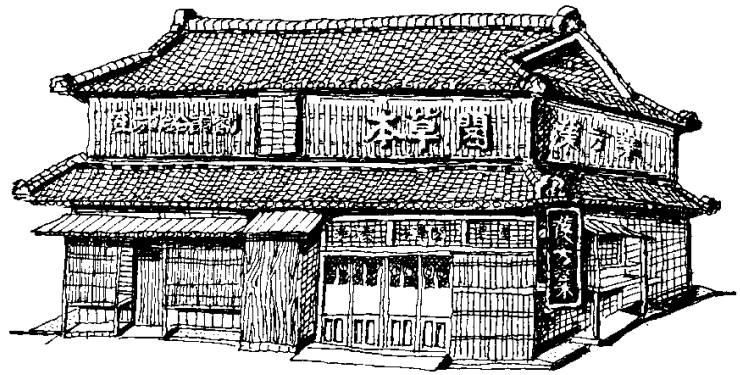


本草閣 かわら版

第 81 号食こ
そ薬・和薬



「食こそ薬」水についての解説

中国の明の時代の李 時珍が著した「本草綱目」の中で色々な水の薬味・薬効を各水毎に記して行きます。

・ 雨水 (うすい)

(語意)・・・大地の気 (エネルギー) は上昇して雲となり、天空の気 (エネルギー) は下降して雨となる。

故に、人間の汗を「天地の雨」をもって名付けてある。

(主な効能)

「立春すなわち陰暦正月節およそ 15 日間に降った雨水を、夫婦がそれぞれ杯一杯づつ飲んで性交すれば、機会さえ適当であれば妊娠するだけの神効がある」

「発汗および脾臓や胃の精気を補益したり、臓腑の虚弱や損傷による元氣虚弱症状を治療する薬を煎じるのに良い」

(解説) 立春の時の雨水は、その性質が自然の生命や生気が発動しだしたエネルギーを得たものであるから、この水を用いて中気や寒の盛んな病、または清新な気を循環させる薬を煎じるために用いると良い。

夫婦それぞれがこの水を杯一杯づつ飲んで性交すれば受胎すると言われているが、これもやはり雨水に含まれた成分に、万物を発動させ発育させる力がある意義を引用したものだ。

・ 梅雨水

(主な効能)

「できものを洗えば傷あとが少なくなる、味噌に入れば熟しやすい」

(解説) 気候が湿潤で、陰暦五月上旬から下旬にかけてさらにひどい。

この季節を過ぎてから書画の虫干しも出来るのである。

梅雨水で衣服を濡らしてしまうと黒カビが発生し、この水で垢を洗えば灰汁のようになり、他の水とは違うところがある」

・ 潦水（りょうすい）

（語意）・・・いつまでも降り続く雨を潦と言う。

（主な効能）「脾臓や胃を整え、湿熱を取る薬を煎じるのに良い」

（解説）熱と痰湿が内にて結して起きる病にこの潦水を用いるが良い。

・ 露水

（語意）露は陰気の液である。夜間の気は着物に付いて道を歩いていても湿ってくるものだ。

（主な効能）秋露の量が多いとき大きく平たい鉢で収集し、これを煎じて飴のようにしたものは、天寿を延ばさせ長寿にするものである。

露水は肅殺（シュクツツ・・・秋の冷たく厳しい空気が草木などを損ない枯らす事）の気を受けるもので肺を潤し疥癬などの皮膚病に用いる散薬を調合するに良い。

・ 百草頭上の秋露

（主な効能）まだ乾かないうちに収集して用いれば色々な病を癒す、消渴

（多飲多尿が主な症状）を止め、人の身体に軽快感を与え長い間肌の血色を潤わせる・・・人の顔色を良くする。

・ 柏葉上の露

・ 菖蒲葉上の露

（主な効能）いずれも目が良く見えるようになる（毎日早朝に目を洗うこと）

・ 菝葜葉上の露・・・ニラの葉についての秋露

（主な効能）白癜風（シオマズノ事）を消す。毎日塗ること

・ 凌霽花（リョウショウカ）上の露

のうせんかずらの花の上についての露

（主な効能）目に入れば目を害する。

（解説）

秋露を使って酒を醸造すれば、極めて清冽な味の酒になる。

楊貴妃は毎朝花の上に付いた露を吸って口の渇きを止め、酒による悪酔いを癒したとも言われる。

およそ秋露や春雨の草についての露に、切り傷や腫れ物・できもの等のキズ口に触れれば痛み痒みが無くなる。